

【奨励賞】

「平和的解決、人々の幸せ」

登別市立緑陽中学校

2年 深谷 いちご

「北方領土」。元々は日本人が住んでいた。一九四五年（昭和二〇年）八月一四日、その日を境に我が国の領土はロシア連邦によって占領されたのだ。

北方領土とは、北海道根室半島の沖合に位置している、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四つの島々のことだ。現在、択捉島、国後島、色丹島は約一万六千八百人ものロシア人が生活をしている。そこに住んでいる人たちは、いつ島を追い出されるのか、不安を抱えながら過ごしているのかと思うと、今までは早く日本に北方領土を返してほしいと思っていたが、普通に暮らしている人を追い出すのは、過去にロシアにされたことをやり返すような感じになってしまうだろう。

そこで、私が考えた一番平和に解決できる策は、北方領土は日本に返還してもらおうが、領土は日本人もロシア人も住むことができる交流の場にするのがいいと思う。この策には、良い点と悪い点がある。

まず、良い点は、今、島に住んでいるロシア人を追い出すこともないし、国の違いを越えて共に生活することで、いい関係を作れるということだ。

逆に、悪い点は、ロシアにとっては自分たちの領土が日本のものになってしまうということや、日本にとっては元々自分たちの土地だったのに他の国と共有しないといけない、などの点がある。このように、二カ国が十分納得することはないかもしれないが、平等かつ平和に解決する策の一つとして、この策が適していると思う。現在、北方領土に住んでいるロシア人も、昔、北方領土に住んでいた日本人も、すべての人が幸せになれるだろう。

この北方領土問題は、今世界が抱えている大きな問題の一つである。この問題が、早く、平和に解決するために、私たちができること、しなければならないことは、全国民が問題に目を向け、国に声をあげることだと思う。そして、国はその声を聴き、早く解決することが大切だ。この北方領土問題が解決することで、国の問題が少なくなり、よりよい国になることを願いたい。すべての人が、幸せになるための第一歩になれるよう、私たちが国に声を上げたい。一人ひとりの思いが合わされば、より早く国の平和を向上させることができるだろう。